しらさぎ

求めて学ぶ　考えて行う　自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより　NO.５
（通巻１０５号）
平成２８年（2016）
５月１３日（金）

『楽しみな運動会と修学旅行』

校長　飯野　博史

２１日（土）の運動会に向けて練習に熱が入ってきました。来週１６日（月）から朝練習も始まります。健康に留意して、万全の体調で本番に臨めるように指導していきます。ご協力よろしくお願いいたします。

■運動会の「ねらい」

八中の運動会には次の「ねらい」があります。

《ねらい》
１　学級の団結を図ると共に、全校の取組として連帯感を深める。
２　心身の鍛練と体力の向上を目指し、日常の取組の成果を発揮する。（オリンピック・パラリンピック教育の視点）
３　公正、協力などの態度を育むと共に、責任感の自覚を深める。（人権教育の視点）

本番だけでなく、本番に至る練習過程を重視していきます。入場行進、ラジオ体操、入退場など細かいところにも指導を徹底していきます。

また、昨年度好評だった「舞い降りたしらさぎのエイサー」を今年度も全校で行います。実施にあたっては、石井 武学習指導員、鷹番ミュージカルシアター、那覇市立石田中学校のご協力をいただきます。勇壮な太鼓、可憐な舞いをお楽しみに。

■楽しみな修学旅行

27日（金）～29日（日）修学旅行を実施します。修学旅行の「ねらい」と「行程」は以下のとおりです。

《ねらい》
１ 日本の歴史・文化に触れ、理解を深める。（オリンピック・パラリンピック教育の視点）
２ 秩序ある共同生活を通して、社会性と協調性を育成する。（人権教育の視点）
３ 自主的・意欲的な取組を、日常の生活に生かしていく。

《行程》
・５月２７日（金）新横浜駅集合（8：00）＝新横浜駅(8:42発のぞみ307号)＝京都駅(10:41着)昼食（木村屋本店）＝京都市内班別タクシー行動＝京都・西山旅館泊
・５月２８日（土）宿舎＝京都市内班別行動（東山・清水寺・三十三間堂等見学）＝班毎に昼食、奈良へ移動＝奈良・観光ホテルタマル着・泊
（Ｅ組はユニバーサルスタジオジャパン方面見学）
・５月２９日（日）宿舎＝東大寺南大門・大仏殿等見学＝（バス）＝あべのハルカス見学・昼食＝新大阪駅(14:23発のぞみ368号)－新横浜駅(16:37着)－新横浜駅解散(17:00)

すでに見学コースもほぼ決定し、事前学習を深めています。今までの宿泊行事や校外学習の成果をいかし、心に残る修学旅行にしていきます。

◎お知らせ　・５月２日付けでＥ組に岡本拓也補助員が新たに配置されました。
・教育実習を９日（月）から３週間実施しています。佐々木幸太実習生が美術の授業と１年Ａ組で実習しています。　よろしくお願いいたします。

５月３０日　開校記念日

美しくも哀しい『しらさぎの伝説』

目黒区立第八中学校校歌

佐藤春夫 作詞

大中寅二 作曲

君は聞かずやむさし野の
碑衾(ひぶすま)あたり伝えいう
信義に生きし白鷺の
形見と咲ける野の花ぞ
今わが校の記章(しるし)なる

君は見ざるや目黒区の
竹より直く学ぶ子は
正義と真理愛しつつ
命の華を生ききそい
みな勤労(いそしみ)に楽しむを

５月３０日は開校記念日です。本校は昭和２２年に開校しましたので、今年で開校７０年目を迎えます。開校記念日にちなんで、本校の校歌と校章の由来についてご紹介します。第六代大脇憲三校長先生（故人、昭和３８年４月～昭和４５年３月まで在職）のお話を当時のＰＴＡ広報担当の方が聞き取ったものです。　　（毎年掲載しています）

我が八中の校歌の歌詞、又校章にデザインされた「さぎ草」の由来を、皆様ご存じでしょうか。

さぎ草は高さ１５～２０センチメートルの多年草の湿地ランの一種で、世田谷区の花に指定されています。昔、碑衾村と言われた八中所在地あたりから、世田谷区奥沢鷺の谷にかけて、田圃のあぜ道にやさしい白い花を咲かせていたと言われております。

この小さな花には次のような悲しく、美しい話が伝えられています。

今から６５０年程前の室町時代のことです。世田ヶ谷城主の吉良氏が住んでいました。

この城主の奥方は、奥沢城主大平氏の娘でトキワ姫といい、戦国の世に見られた両城主との間をつなぐための政略結婚でした。しばらくは平和な生活が続きましたが、ある時、領地の境界の争いから遂に二人の城主が戦うことになりました。大平方の一隊は吉良方の世田ヶ谷城近くまで攻め込みました。トキワ姫は大変この戦いに心を痛め、講和か救援を頼むほかはないと思われ、以前より可愛がっていた一羽の白鷺を使いとして、脚に手紙を結びつけて放ちました。白鷺は城の上空を二、三回飛び回ると、古巣である奥沢城に向かって飛び去りました。

ちょうど今の八中あたりまで来た時、敵兵に見つけられ、弓で射ち落とされてしまいました。羽を打ち抜かれた白鷺は、白い体を真っ赤な血で染めながらもバタバタと懸命に飛び上がろうともがきましたが、力尽きて息絶えました。

世田ヶ谷城はトキワ姫と白鷺の努力もむなしく敵の手に落ち、トキワ姫も自害しました。

しかし、その後白鷺の死んだ田圃のあたりから一本の草が生え、白い花をつけました。よく見ると白鷺が足に短冊をつけて飛んでいるようです。

これを知った人々は、白鷺の魂が花になって生まれ変わり、自分の主人のために信義に生きようとした姿だと白鷺の死を悼み、さぎ草を形見として大切に育て、またこの話を永く伝えました。

今は九品仏のさぎ園など限られた場所でしか見られなくなったさぎ草ですが、八中が創立された折、校章にデザインされ、また校歌の作詞を依頼された佐藤春夫先生もこの伝説に感銘を受けられ、「信義に生きし、白鷺の形見と咲ける野の花ぞ…」と歌い込まれたそうです。